



新屋・大彦、この地で創業約350年

› 大彦商店の歴史

江戸前期 天和年間(1681年～1684年)

初代・大門彦右衛門は、親族の大門助右衛門と共に、加賀国(現在の石川県金沢)より黄金谷(現地・新屋表町)へやってきました。当初は油屋を営み後に醤油醸造部を創業しました。以来、時代の潮流に合わせた商いを営みながら一貫して同地にて商売を継続し現在創業三三〇余年 十三代・大門彦右衛門に至ります。

文化十一年(1814年)の大火では、亀田藩の御用商人として亀田藩主・家臣連名による見舞状を拝受しています。最も古い建築部分には、棟札が無いが妻飾りや意匠、小屋組の技法や構造形式から推定して江戸末期の建築と思われ新屋地域では最古の町家です。



› 大彦商店のこだわり

趣のあること、地域と共にあることに拘る。

当蔵では、醤油は一升瓶のみの販売です。それは、わざわざ新屋の醸造元を訪れてくれたお客様へ、昔ながらの醸造元でしか味わえない趣や雰囲気を楽しんでいただけることを願っているからです。当家は、古くから新屋地域と共にありました。秋田戦争(戊辰戦争)では宿場や出納役を担いました。そして、現在新屋は秋田美大や新屋ガラス工房をはじめ、若き力や芸術の力で変革を遂げようとしています。当家でも、微力ながらそのような動きを応援するべく、店舗横のスペースを開放し、“様々な人がいつでも立ち寄れる”時間外販売所と休憩スペースを設けました。これからも地域と共に発展していくことを願っております。

